◇　山　田　和　子　君

**○議長（山本浩平君）**　続きまして、議席番号１番、山田和子議員、登壇願います。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　１番、会派みらい、山田和子でございます。共生公園の工事も始まり、合同会館の撤去など、活性化プランの基盤整備推進分野では進捗状況が目に見えるようになりました。情報推進分野では、大町商店街のタペストリー設置や巨大パッチワークの制作など、こちらも活動が目に見え、特に巨大パッチワークの制作には多くの方に参加していただき、評判も上々と承知しております。そこで、活性化推進プランの基本方針のサブテーマにありますアイヌ文化の理解と復興による多文化共生社会の実現を図る、この部分について教育学習推進分野が大きくかかわってくると理解しておりますが、具体的にどのような取り組みがされているのか、またしていくべきなのかを質問していきたいと思います。

では、１項目め、多文化共生、文化の共生についての１点目、活性化推進プランにおける具体的な取り組みについて。

２点目、白老町アイヌ施策基本方針について。

３点目、生涯学習における多文化共生について。

以上、３点お尋ねします。

**○議長（山本浩平君）**　戸田町長。

〔町長　戸田安彦君登壇〕

**○町長（戸田安彦君）**　多文化共生の文化の共生についてのご質問であります。

１項目めの活性化推進プランにおける具体的な取り組みについてであります。2020年の民族共生象徴空間の開設を控え、教育学習を推進する分野では、児童生徒にアイヌ文化の学習機会を提供するアイヌ文化を学ぶふるさと学習事業を継続して実施するとともに、開設への機運醸成や訪日外国人の受け入れ態勢を構築する多文化共生人材育成事業、本町の歴史、文化を学ぶ地域学講座開講事業などを官民協働で行ってまいりました。

２項目めの白老町アイヌ施策基本方針についてであります。基本方針については、平成19年９月に策定し、アイヌ民族の尊厳を確立するとともに、アイヌ文化を次の世代や未来の子供たちに引き継ぐために、アイヌ民族の誇りを高めること、全町民がアイヌ民族への正しい認識と理解を深めること、互いの文化を尊重し合える社会の実現に努めること、さらには多文化共存による地域の繁栄を推進することを目的とし、アイヌ民族の歴史や文化に関する教育の振興などの取り組みを推進しております。

３項目めの生涯学習における多文化共生についてであります。28年度の事業といたしましては、名所旧跡をまとめた郷土マップを2,000部作成し、町内公共施設に設置いたしました。また、地域学の先進地である世界遺産知床に教育学習部会の委員が視察研修を行い、情報の収集を行いました。地域学講座は、まち歩き講座など３事業18講座を開講し、延べ200人が郷土の成り立ちやおもてなしの心構えについて学びました。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　１番、山田です。この８月10日の北海道新聞の記事で、アイヌ新法に生活、教育支援などを明記するかどうかを判断する際の参考にするため、生活実態調査を本年度中に実施すると載っておりました。その記事の中に、差別を恐れてふだんはアイヌ民族だと明かさず、アイヌ民族のコミュニティーから離れている人の声をどうすくい取るかが課題として挙げられていました。私は、差別を恐れてという部分、ここを一日でも早くなくしていけたらと考えております。白老町アイヌ施策基本方針では、答弁にもありましたが、全町民がアイヌ民族とその苦悩の歴史を正しく認識する社会の創造に努めなければならない。アイヌ民族の尊厳と自律を回復するとともに、アイヌ文化を次の世代、未来の子供たちに引き継ぐために今後の白老町における中長期的な展望に立った総合方針として定めるとあります。そして、白老地域計画レラコラチ、アイヌ語で風のようにというネーミングでありますが、こちらの計画で具体的な事業を示していると理解しています。レラコラチは、平成18年３月にイオル再生の事業計画としてつくられたと思いますが、現在でも色あせていない非常によい計画だと評価しています。そして、冒頭申し上げましたとおり、活性化推進プランのサブテーマ、アイヌ文化の理解と復興による多文化共生社会の実現を図るため、具体的な取り組みについて多文化共生展開プランを今作成中と承知しております。この計画とレラコラチの計画の関連性はあるのか、現在レラコラチという計画はどのようになっているのかお尋ねします。

**○議長（山本浩平君）**　三宮アイヌ総合政策課長。

**○アイヌ総合政策課長（三宮賢豊君）**　まず、計画の現状についてでございますが、この計画については、議員のおっしゃるとおり白老地域計画レラコラチとして、白老町が国土交通省、文化庁、アイヌ協会、アイヌ文化振興研究推進機構で組織されたアイヌ文化振興等施策推進会議からイオル再生事業の先行地域として選定されまして、他の地域に先駆けて策定したものでございます。現在は、事業の主体であるアイヌ文化振興研究推進機構において、白老だけではなく各地域の地域計画とあわせて毎年度事業の検証などが行われておりまして、地域計画の見直しが行われておりますが、白老イオルの方向性であるアイヌ文化や歴史に関する体験学習などを実施する学習型イオルという目指すべき姿は変わっておりません。また、多文化共生まちづくり展開プランとの関係ですが、イオル再生事業の地域計画はプランに掲げていますアイヌ文化の理解、共有も掲げられていますので、関連しているものと考えているところでございます。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　１番、山田です。レラコラチの計画というのは、本当にすばらしい計画だなというふうに、今も色あせていなくて、体験重視のすばらしい計画だと思いますので、引き続き大事にしていっていただきたいなと思います。第５次総合計画の個別計画の中にはもちろん入っていないのですけれども、入っていなくても、これはうちの計画として大事にしていくということの認識でよろしいでしょうか。

**○議長（山本浩平君）**　三宮アイヌ総合政策課長。

**○アイヌ総合政策課長（三宮賢豊君）**　正確に申し上げますと、レラコラチ自体は平成22年度で完了してございます。ただ、先ほど申し上げましたように、アイヌ文化振興研究推進機構におきましてほかの地域の計画とあわせた形で地域計画としては残っております。それで、目指す方向、体験学習の内容なども引き続き行っておりまして、今後も引き続き継続されるものというふうに認識しております。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　承知しました。計画の精神というのですか、とても大事だと思うので、うちのまちでも引き続きその精神の継承というのはしていっていただきたいと思います。

旭川市のアイヌ文化振興基本方針でも、市民が旭川におけるアイヌ民族の苦難の歴史を学ぶことができる環境を整備することにより、無理解からくる偏見や差別の解消を目指すとあります。過去において、ほかの地域でもアイヌ民族への差別の事実は残念ながらあったと思います。答弁にもありましたように、本町では小中学校での学習は充実していて、アイヌ文化への理解もあり、子供たちには偏見もないと感じています。また、20代、30代の方々にもアイヌ文化は格好いいという意識があると思います。先日飛生で開催された芸術家たちのＴＯＢＩＵ　ＣＡＭＰに参加しましたけれども、その様子がとてもよくわかります。また、７月21日と23日に開催された第１回白老みらい創りプロジェクトの対話会で、白老の夏の楽しみ、遊びは何ですかという問いに、白老の文化と歴史、アイヌ民族の文化、ポロトコタンの夜、ポロトの森などとアイヌ文化にかかわることがたくさん挙げられており、次のテーマで話し合いたいことにアイヌ文化について勉強したいという感想もあったことでも町民がアイヌ文化を知りたい、楽しみたいという意識は高まってきていると感じておりますが、担当課としての見解がありましたら、お尋ねします。

**○議長（山本浩平君）**　高尾企画課長。

**○企画課長（高尾利弘君）**　白老みらい創りプロジェクトの関係でございますので、私のほうからお答えしますけれども、みらい創りプロジェクトということで多様な人たちが対話、交流を通して、その地域にあるものを見つけながら、まず地域のつながりを深める中で地域の今後の新たな取り組みというか、施策に生かしていきたいというような取り組みでございますけれども、その中で竹浦、虎杖浜地区、どちらかといいますと象徴空間とは離れた地区であってもそういったことの意見で、白老の地域資源としてアイヌ文化というのは一番大事だという話の中で、アイヌ文化についてももっと学びたいというご意見だったり、ほかの地区でも、例えば札幌から移住されて７年目ぐらいになる方が白老にアイヌ文化、そういうものがあるということで、そのことをもって移住したりだとかということもありますし、それが地域の特色なのだということもお話しされていたりして、そういった部分でもアイヌ文化をしっかり学んでいくということが、例えば外に出たときとか人をお迎えするときにも、しっかりアイヌ文化を理解するということが大事なのかなというふうに認識しております。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　１番、山田です。ないものをねだるよりも、あるものを探して、それに磨きをかけていくという、そういうことはとても大切で、今のまちづくりには必要なことだと思います。活性化推進プラン全体スケジュールの多文化共生及びアイヌ文化、歴史などを学ぶ講座を通して文化を学ぶことの楽しさやほかの文化に接するための心構えに気づく、新たな発見や楽しさの獲得を導くための事業として地域学講座開講があります。答弁書にもありましたけれども、平成28年度より我がまちを学ぶ地域学講座はまち歩き講座等３事業18講座にわたって行ってきたと承知しております。答弁では延べ200名の参加があったというふうに書いてありますけれども、もう少しその成果について詳しくお尋ねいたします。

**○議長（山本浩平君）**　武永生涯学習課長。

**○生涯学習課長（武永　真君）**　本町教育委員会では、まちの歴史や文化、あと接遇、こういうものについて学ぶという連続講座、18回に及ぶ約１年をかけた連続講座を行うというのは始めてのことでございました。主なものとしましては、館長とまち歩き講座を８講座、しらおいマメ知識講座を４講座、おもてなし講座を６講座開いたところであります。主な成果といたしましては、参加された方々を通じまして郷土への理解や愛着心が醸成され、ふるさとへの興味関心が非常に高まったことというふうに推測しております。また、我々も事務局としまして地域資源について調べまして、それを郷土マップやパンフレットというような形にできたということも大きな成果であります。そして、つくりましたパンフレットなどを持って自分の住んでいる地域を歩いてみようというような方々の話も最近舞い込んでくるようになりました。地域に対する探究心というのですか、そういうのが膨らんでいるということであります。そして、まち歩き講座の中では、それぞれの地域に地域講師という方をお願いしまして、そこで生まれ育った方、そういう方々のお話を聞けたと。地域講師の方々の誇りとプライドを持って自分の地域を紹介するというのを目の当たりにしまして、人的資源の豊かさを改めて確認するとともに、参加した人たちは私だったらこんなふうに話そう、自分たちのまちのことをこんなふうに話そうというような姿勢という、未来への確かな予感というのですか、将来的な態度というようなことを感じたというところでございます。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　白老町のホームページに地域学講座パンフレットはアップされておりまして、私は特に第３編の大町、高砂地区の内容にとても興味を持ちました。ほかの地域のパンフレットも読ませていただきましたけれども、白老にこんな歴史があったのかと、まさしく白老再発見でした。今さまざまな効果が出てきているようですけれども、今後この地域学講座をどのように活用されていくのかお尋ねします。

**○議長（山本浩平君）**　武永生涯学習課長。

**○生涯学習課長（武永　真君）**　まち歩き講座につきましては、今年度も５月から８月まで日曜日の午前中を中心に10回ほど開催いたしましたけれども、町民は36名、延べ179名の参加がありました。昨年が15名で延べ70名ということですので、倍以上の参加をいただいたということになります。また、男女の内訳ですけれども、昨年度は男性が10名に対して女性５名というよ

うな比率でありましたけれども、今年度は男性が13名に対して女性が26名ご参加いただいたと。また、参加された方の平均年齢も昨年が70歳だったものがことしは65歳まで下がったということで、20、30、40代の方々も参加いただいているというようなことでございます。また、全10回講座を行いましたけれども、10回とも参加したという方が１名、それと９回以上という者が４名、また７回以上の精勤者が10名ということで、やればやるほど一生懸命出てきてくれるのだなというふうなことを思いました。その中でアンケートもいろいろとってみたのですけれども、議員さんもおっしゃっておりましたけれども、うちのまちにこういうところがあったのかというようなことを改めてわかったと、自分は白老のことを知っているつもりだったけれども、そういうようなところがあったということ。また、この講座に参加しなければ知ることができなかったということもたくさんあったということで、非常に感激したということがありました。

今後についてどのように活用していくかということですけれども、年度内においては参加者とともにこの事業成果の掲示による展示会を文化祭にあわせて開催したいというふうに思っていますのと、またその際に作成したご当地クイズというのがあるのですけれども、その答え合わせを兼ねまして、学んだことを復習し、学習の進展を図りたいということ。それと、最後に、昨年同様郷土資料の編集委員会によりまして本町の偉人や伝説をまとめたしらおい再発見２のパンフレットを制作したいというふうに思っております。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　この地域学講座を通して、迎えます民族共生象徴空間の開設に伴ってボランティアガイドさんも当時に育成していければいいなというふうには感じておりますけれども、まず歴史を正しく認識するという点で、そのまま子供たちにも総合学習の時間ですとか、あるいは土曜授業のときとかに活用してはいかがかなと思いますが、その辺の見解をお尋ねいたします。

**○議長（山本浩平君）**　武永生涯学習課長。

**○生涯学習課長（武永　真君）**　生涯学習の分野からのアプローチなのですけれども、今年度１月に子ども議会を考えております。来月には事前の学習会も行いたいなというふうに思っているのですけれども、その中で、子供たちも自分の地域は歩いたことあるかもしれないのですけれども、ほかの地域はそんなにないだろうということで、まち歩きに似たような試みは一度今年度やってみたいなというふうに思っています。

**○議長（山本浩平君）**　安藤教育長。

**○教育長（安藤尚志君）**　今議員のほうから土曜授業の活用という点でご提案ございましたけれども、土曜授業自体の趣旨は子供たちがこの時間を通して地域に学ぶということが一番大きな狙いでございまして、趣旨としては同じだと思うのですが、ただその時間の中で実際に子供たちがまちを探索できるかということについては、各学校でそれぞれカリキュラムがございますので、その中に組み入れることができるならば可能かなというふうに思いますが、今の段階でそこまでは多分学校のほうも考えていないのかなというふうに思います。ただ、先日白老中学校で行われました１回目の土曜授業では、子供たちがアイヌ文化にかかわって学習してきた

内容を子供たちや保護者の前で発表するというような、そういう時間の活用をしておりますので、これが今後発展して、もう一度学び直しで地域に一緒に出ていって学んでくるという、そういう機会ができれば、また土曜授業も一層充実するのかなというふうに思っております。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　１番、山田です。まず、自分たちの住んでいるまちの歴史をアイヌ文化含めて学び直すということは、とても重要な意味を持つことではないかなと思います。多文化共生を周知するイベント的な大きなシンポジウムを開催するよりも、かなり地味に見える取り組みですけれども、少しずつ町民一人一人に白老の歴史を学んでいただくことが大きな変化をもたらしていくことではないかなと考えております。

この項目の最後の質問ですけれども、生涯学習での多文化共生についてどのようなビジョンをお持ちなのかお聞きして、１項目めは終わりたいと思います。

**○議長（山本浩平君）**　武永生涯学習課長。

**○生涯学習課長（武永　真君）**　私ども昨年度から行っておりますこのような事業、いわゆる地域学講座ですけれども、地域学とは地域に誇りを持てる人間を育てる教育だというふうに思っています。多文化共生への取り組みとは、白老の歴史や文化を学んで、白老にもいろいろな歴史や人や生活や文化があって、考え方があったのだということを理解する。地元が大好きになる。地元大好きな人間を育てるということであると思います。このことから、来年度におきましても町民の生涯学習を後押しするまち歩き講座等を継続したいということと、それが将来的にはまだしっかりしたどのようにつなげていくかは模索中ではございますけれども、ガイド養成に寄与したいというふうに考えております。また、ほかの課においても行われております人材育成に向けた取り組み等の検証を一緒に行うなどして、まちとしての統一した見解と具体的なスケジュールをもちまして2020年に向けた人材育成を推進する必要があるというふうに思います。これらを牽引する中心人物を最終的には民間の中に育てたいと、輩出したいと思っているところです。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　大変地道な取り組みになると思いますけれども、応援していますので。地域学講座のパンフレットはすごくよくできていると思います。ぜひ長く時間かけてでも取り組んでいっていただきたいと思います。

では、次のまちづくり会社についてに移ります。活性化推進プランの活性化推進分野、多様な人材と交流を生かした魅力あるまちづくりを目標に、その推進組織としてまちづくり会社の設立がスケジュール化されています。

そこで、１点目、設立に向けた進捗状況について。

２点目、抱えている課題と解決策についてお尋ねいたします。

**○議長（山本浩平君）**　戸田町長。

〔町長　戸田安彦君登壇〕

**○町長（戸田安彦君）**　まちづくり会社についてのご質問であります。

１項目めの設立に向けた進捗状況についてであります。私の２期目の公約として掲げたまちづくり会社は、観光産業による地域づくりを目指した白老版ＤＭＯであります。この取り組みは、平成27年12月からスタートし、設立手続の計画案の作成を行い、28年度には設立準備委員会での検討、事業計画案を策定しました。29年度におきましては、前年度までの検討を踏まえ、さらに情報収集を進め、組織体制や事業計画案を再構築しているところであります。

２項目めの課題と解決策についてであります。課題につきましては、設立方法の決定、運営するための人材及び資金の確保などがあると捉えております。解決策につきましては、まちづくり会社の設立に賛同する出資者や運営を担う人材を確保し、関係する方々において事業計画案の作成及び運営体制を構築することと考えております。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　１番、山田です。３月議会の町長答弁で、まちづくり会社は設立準備委員会を広くした中で考えていければいいという答弁がございました。私は、この設立準備委員会を民間の方々に広くしていく前に、何よりもまずその中心人物というか、トップとなるべき人物の決定が一番先にするべきことではないかと考えております。その中心人物を中心にして事業計画を立てなければ、責任を負わない人たちで幾ら考えてもまちづくり会社は進んでいかないのではないでしょうか。やる気のあるリーダーシップを発揮できるトップを探してくることが理事者のまず第一の仕事ではないかと考えますけれども、見解を伺います。

**○議長（山本浩平君）**　岩城副町長。

**○副町長（岩城達己君）**　ただいまのご質問ですが、27年からさまざまな形でまちづくり会社の検討を進めてきました。これまでいろんな形でまちづくり会社にしようというような考えもございましたが、これまでの議会での議論を踏まえて、民間が主体となって新たな展開をしようということを今検討しているところですが、まさに今議員がおっしゃるように、そこをしっかりコーディネートして引っ張っていくようなリーダー、核になると、そういう人材の必要性は私どもも認識しております。町内の方が町内のことを一番よくわかっていますから、そういった方がいるといいのですが、なかなか自分がという部分が難しくて、そうなれば町外の方、そういったことも広く広めて、やっぱり引っ張ってくれる人材も必要ではないかなというふうに認識してございます。町長もあらゆる機会を捉えてそういった人材を探し当てるということの行動等も行っていますが、私どももいろいろな機会でいろんな方とネットワークをつくった中でそういう人材を探していきたいという考えで捉えてございます。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　１番、山田です。まちづくり会社は、多文化共生に関する人材育成などの非収益事業はもちろん、白老型ＤＭＯとして地域が主体となって行う観光、地域づくりも担っていくものと承知しております。強力なリーダーは、それは社長としてお迎えしなくてもいいと思いますけれども、とにかく中核的な人材とともに行政から職員を出向させて、非営利

部分や観光地域づくりの事業計画づくり、設立に向けて事務的なことは行政が支援しながら会社設立といった流れがいいのではないかと考えております。例えというか、道南の福島町では、本町と同じ平成28年の新・地域再生マネージャー事業を活用して平成28年11月にまちづくり工房を設立しています。その事務局体制は３名で、１名は現在の地域おこし協力隊員、そしてもう一名は町の臨時職員で企画課に勤務する方を法人への出向として、法人の支出を縮小する方針ということでそういう事務局体制をとっています。私も、まちづくり会社が安定的に事業収益が出るまで行政からの出向ということは考えてもいいのではないかと思いますが、職員を出向させることについての見解を伺います。

**○議長（山本浩平君）**　岩城副町長。

**○副町長（岩城達己君）**　これまでも、まちづくり会社ということではなくて、いろいろな町内にある団体に対して職員が出向するという体制はとってきたというのがございます。今回のまちづくり会社の設立に向けてという部分では、どこが母体となって展開していくかということが、まず大事なことが１つあります。そこに対して行政がそこにかかわりを持たないということではなくて、行政はしっかりそこはかかわっていかなければならないと思います。そのことがイコール出向かといったら、出向でなくても十分できることもあろうかと思います。今の段階でそういう方向でという答弁は申し上げられませんけれども、行政のかかわりが大事なことだからこそ、まちづくり会社という白老版のＤＭＯであって、単純に民間が商売やるというのであれば、それはそれでいいと思います。ところが、非収益事業もあるわけですから、そういう部分はしっかり行政もかかわって組み立てていかなければならないかなというふうに捉えてございますので、今の段階ではまだ出向という部分の考えには立ってございません。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　１番、山田です。福島町のまちづくり工房の公益事業としては、吉岡温泉の指定管理者受託事業と、あと観光協会の事務受託事業というのを、確実に収入源としてこの２つの公益事業を請け負っています。そして、ことし新聞報道等にありましたけれども、ビジネス事業で青の洞窟のクルージング事業を試行的に運航させて、当日は曇っていたので青くならなかったみたいですけれども、そのようにもうかる事業のことも検討しながら、今一生懸命まちづくり工房を発展させようという努力が見られるところです。それで、観光協会の事務受託事業を請け負っているという点なのですけれども、うちのまちとしても観光協会との統合も視野に入れて、観光客に対する窓口の一本化というのは観光客側にとっても便利なことだと思いますので、観光協会の機能もまちづくり会社に統合して一本化を目指すべきと考えておりますが、見解を伺います。

**○議長（山本浩平君）**　岩城副町長。

**○副町長（岩城達己君）**　今のご質問ですが、現在ある観光協会と考えているまちづくり会社を一つにしてはどうかという視点でのご質問かと思います。選択肢にはいろいろあると思います。今の観光協会を法人から株式会社化する方法も１つあろうかと思いますし、全く違う部分でまちづくり会社を立ち上げるという部分と統合という方法とか、さまざまな展開方法はある

かというふうに思います。その中の一つとして今お話があった統合という、観光協会が発展的にそういう形をとっていくという趣旨かと思いますが、そのことも今現在担当課のほうでそのことによってどれだけの収益事業があって、より多くのお客様に対しての対応、サービス含めた中で事業化できるか、その辺は検討しておりますので、一つ一つ整理ができれば、そういう方向の道もないということでは決してないかなというふうに考えてございます。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　では、まちづくり会社の最後の質問ですけれども、まちづくり会社が余り順調に進んでいない原因は､かかわっている人の意識に白老には無理なのではないかとか、今すぐ必要ないのではないかとか、そういう後ろ向きの感情がないことはないのではないかというふうに感じています。改めて、白老町にまちづくり会社が町長は必要であるという強いメッセージを伺って、まちづくり会社の質問は最後としたいと思います。

**○議長（山本浩平君）**　戸田町長。

**○町長（戸田安彦君）**　日本の国が観光立国ということで訪日外国人4,000万人を目標として行っていますし、北海道も300万人、400万人という形で訪日外国人を受け入れる体制を今つくっている最中でございます。実際今現在230万人北海道に来ているということは、白老町にできる象徴空間を中心とした訪日外国人または道内、道外の観光客のお客様がここをきちんと周遊というか、象徴空間を目的に来るお客様も白老町内に経済の活性化も含めてきちんと周遊して、経済が回るような形をとっていかなければならないというふうに考えますと、先ほど山田議員がおっしゃっていたまちづくり会社というのは必要不可欠な団体であるというふうに思っております。一番難しいのは、やっぱり人になるのですが、ここはきちん外貨を稼ぐ、経済を回すこととまちづくりという公的な部分とをきちんと考えて、白老町全体の経済と公的な役割を考えなければいけないので、この辺は2020年にきちんと間に合うように会社の設立を行っていきたいというふうに考えておりますし、それでなければ、ポロト地区だけに人が来てほかの地域には人が来ないという状態が一番悪いと思いますので、この辺はきちんと連携性と連動性を持ちながら周遊させる人の流れをつくっていくためのまちづくり会社を必ず設立したいというふうに考えております。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　１番、山田です。さまざまな成功事例の視察をしてまいりましたけれども、必ず成功事例の陰にはマンパワーがありました。人の力というのは本当に重要で、トップとなる中心となる人を探してくるということは非常に大変だと思いますけれども、町長や理事者におかれてよい出会いがあることをご祈念申し上げて､この質問は終わりたいと思います。

　では、３項目め、公園施設の管理、整備について。財政調整基金が健全化プランの目標金額も達成し、さまざまな基金も増額され、暗闇だった財政状況にわずかな光が差し始めています。前段の同僚議員の質問の中にも財政規律をきちんと守ってプランを遂行するべきということは重々承知しておりますけれども、プランからは余り大幅にはみ出さない程度で取りかかれる案

件と考えまして、３点質問いたします。

１点目、子育て支援の観点から遊具の改築、設置について。

２点目、すぐに修繕すべき建築物があると考えるが、優先順位の考え方について。

３点目、桜ケ丘運動公園の整備について。

**○議長（山本浩平君）**　戸田町長。

〔町長　戸田安彦君登壇〕

**○町長（戸田安彦君）**　公園施設の管理、整備についてのご質問であります。

１項目めの子育て支援の観点からの遊具の改築、設置についてであります。公園施設につきましては、スポーツ、レクリエーションなど誰もが身近に利用できる施設として整備を進めており、主な設備としては、シーソーやブランコ、滑り台、鉄棒などの遊具やベンチ、休憩所など憩いの場となるような設備を配置しております。また、公園遊具等につきましては、劣化の状況や利用状況などを十分に踏まえながら補修や更新するなど、定期的な点検や公園里親制度を活用して、誰もが安心して利用できる公園づくりに努めております。

２項目めのすぐに修繕すべき建築物の優先順位の考え方についてであります。公園施設の修繕につきましては、予防保全の視点から定期的な点検を行うとともに、公園施設長寿命化計画に基づき、施設機能の向上、保持に取り組んでおります。また、修繕が必要な遊具等につきましては、適時補修しながら安全性、快適性を確保し、誰もが安心して利用できる施設として維持管理に努めております。

３項目めの桜ケ丘運動公園の整備についてであります。一般財団法人白老町体育協会が指定管理者として温水プールを除く町営球場、陸上競技場、テニスコートなどの運動公園施設全般の管理運営を３人体制で実施しております。多くの方々に快適に利用していただくため、日常の安全点検を初め、芝の管理や破損箇所の修繕等を随時行っております。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　１番、山田です。公園里親制度は、町民の皆さんの善意で遊具のペンキ塗りや草刈りなどの維持管理を行っていただいていると承知しております。公園ではありませんけれども、先日美園団地のガードレールのペンキ塗りが町内会の有志の方々で行われていました。何から何まで行政がやる時代ではないということ、町民ができることは町民が行う意識は協働のまちづくりの上でも大切です。また、企業でも公園をきれいにするボランティアを行ってくださっていると新聞報道などでも承知しております。これは、大変ありがたいことだと思っております。町民ができることは町民で努力してまいりますけれども、遊具の設置はやはり行政の仕事です。改めてこの質問をするに当たって公園を見て回っても、目新しい遊具はなく、特によちよち歩きのお子さんが遊べる遊具がほとんどありません。白老は、外遊びができる暖かい季節が短いですけれども、幼児期の外遊びはとても大切です。外遊びの環境を整えることも子育て支援と考えております。文部科学省は、平成24年３月に幼児期運動指針を出しておりますけれども、幼児期における運動の意義、要するに幼児期にたくさん運動すると成人病にもならず、健康寿命も延びるという、大まかに言うとそういう指針であります。幼児期に

運動することの大切さ、外遊びの環境を整えることというのは大切であるし、行政の仕事であると考えております。この幼児期運動指針にかかわって、外遊びの環境を整えることについてどのような見解をお持ちかお尋ねします。

**○議長（山本浩平君）**　安藤教育長。

**○教育長（安藤尚志君）**　今議員がお話ししていただいたように、幼児期における遊びというものは人が豊かな成長をしていく上の基盤づくりというようなことで、あと遊びを通して子供たちはさまざまな社会性を学んだり、意欲、心の部分での成長もしていくということで、このことをきちんと行うことは極めて重要だというふうに考えておりますし、また現実的には恐らく保育園や幼稚園の中でもこうした考え方に基づいた教育活動が行われているというふうに理解しておりますけれども、教育委員会としても、教育委員会というよりも、役場としてもそういった子供たちの外遊びができるような環境づくりについて十分意を尽くしていくことは必要なことだというふうに理解しております。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　１番、山田です。参考までに、本町の地区別の３歳児以下の人数をお尋ねしたいと思いますが。

**○議長（山本浩平君）**　畑田町民課長。

**○町民課長（畑田正明君）**　３歳児以下の町内の人口ということで押さえております。町内で８月末現在ですが､270名が３歳未満というふうにカウントしております｡地区別で言いますと、社台が10名、あと白老140名、石山８名、萩野38名、北吉原27名、竹浦20名、虎杖浜27名、合計で270名となっております。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　１番、山田です。人数が多いところに設置してあげたいという考え方もありますけれども、その地区にずっと乳幼児が集まるとも限りませんので、ここにという地区の要望はできませんけれども、秩父別町はこの４月にキッズスクエアちっくるというのを、箱物ですけれども、子供が安全に元気いっぱい遊べる健やかわくわく成長空間ということでちっくるという建物を建てているのです。秩父別町の人口は、全部で2,430人なのです。この時期の会議録を読んでみますと、交流人口が目的ではなくて、担当課は教育委員会の教育グループなのです。だから、要するに子供が運動できるスペースを子育て支援として、このまちで子供を育てたいと定住目的でこの施設をつくったということがよくわかります。ほかのいろんな議員さんからは、維持管理経費等々、これからの人口減少を見てどうなのだという発言もありましたけれども、子供たちに対する体を動かすという点で、非常に秩父別町ではそういったことを念頭に置いて子育て支援をしているのだなということがよくわかります。うちのまちでは、もう箱物云々ということは要望できませんけれども、今人数は聞きましたけれども、人数に関係なく子供たちの遊びの場の提供というのは行政が考えていかなければならない課題でありますし、例えばすくすく３・９も老朽化してきていますから、何かそういった新設の機会があれ

ば、幼児が安全に遊べる遊具の設置を検討していただきたいと思いますが、見解を伺います。

**○議長（山本浩平君）**　小関建設課長。

**○建設課長（小関雄司君）**　遊具の設置ということで、例にすくすく３・９の老朽化といった部分が出てきたのですけれども、すくすく３・９のようなところというのは基本的には子供を子育てする拠点というふうな部分でありますので、そういうところに例えば遊具を設置するというのは非常に利用価値としては大きいのかなと思います。そういうところの横に公園を設置するというとまた話が大きくなるのですけれども、基本的にそういう施設に付随する、または併設するようなコミュニケーション遊具というのでしょうか、そういうのをある程度設置するということは非常に有効な部分なのかなと思いますけれども、公園と捉えるか、今後併設として捉えるかは別にして、そのあたりはすくすく３・９の今後のあり方の中で何か議論されるようなことがあれば、その中で一緒に、遊具の設置等についてもどういう方向性がいいのかということは中に入って一緒に議論させていただきたいなと思います。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　３歳児以下の問題というか、課題ですので、子育て支援室の課題でも同時にあるわけですけれども、教育委員会と建設課と子育て支援室と連携しながら、幼児期の外遊びの環境づくりは大切だと思いますので、ぜひ検討していただきたいと思います。

　では、２項目めのすぐに修繕すべき建築物云々についてですけれども、都市計画マスタープランや公共施設総合管理計画でも公園の扱いというのはとってもあっさりしています。公園の長寿命化計画はあっても、財政状況が厳しいため、執行の優先順位としては低くなっているのが現状です。しかし、公園施設の長寿命化は、やはり予防、保全的管理と定期的な点検作業が大切であるということは明白であります。特に建築物でいうと萩の里自然公園のセンターハウスは、建築物でありながら建築物扱いではなくてインフラ扱いになっておりまして、公共施設として取り扱っていられないようですし、そのまま適時に修繕というような形になるのではないかというふうに危惧しています。木材ですから、特に予防、保全的管理をしていく必要があると思います。現地確認しましたところ、センターハウスのほうは今のところきれいに塗装されておりましたけれども、木道というのですか、歩くところの木が一部腐食していたり、つまずくほどの反りぐあいがあったり、途中のベンチの木がちょっと腐食していたりということがあります。木でできているものですから、定期的にというか、早目に保全することが大切であると思うのですけれども、その見解をお伺いします。

**○議長（山本浩平君）**　小関建設課長。

**○建設課長（小関雄司君）**　センターハウスの件でございます。センターハウスそのものというのは、もう十五、六年たっていますので、今後は定期的に点検して整備しなければいけないなと思っております。今言われた歩く木道、入り口付近の木道なのですけれども、そこは我々のほうとしても確認しておりまして、老朽化して、木ですからちょっと欠けてしまったり、または反ってしまっているようなところもありますので、そういったところについては早急に確認して修繕なり補修なりするような形にしていきたいと思います。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　１番、山田です。萩の里自然公園は、交流人口をふやすためのさまざまな活用が期待できる場所だと考えております。草花の宝庫のところでありますし、草花観察会やアイヌ民族博物館の巡回ミニパネル展としても今回展示場としてセンターハウスが活用されておりますし、私が見に行ったときは車椅子に乗られた方が、あそこはなだらかな坂を上がっていって森林浴ができるものですから、車椅子に乗った方がお散歩に来られていたり、家族で芝生の上でお弁当を食べたりという光景が見られ、萩の里自然公園は白老町においても大事な宝物であると感じておりますので、しっかり維持管理をしていっていただきたいと思います。

次に、桜ケ丘運動公園に移ります。桜ケ丘運動公園も、やはり町民の健康増進とともに交流人口をふやすツールとして見ることができます。国立アイヌ博物館見学とあわせて、さまざまな大会や合宿の誘致も可能であると考えております。まず、その状況について具体的にお聞きしますけれども、テニスコートの状況なのですが、ボールが黒くなってしまうというふうにお聞きしておりますけれども、現状はいかがでしょうか。

**○議長（山本浩平君）**　武永生涯学習課長。

**○生涯学習課長（武永　真君）**　桜ケ丘運動公園のテニスコートは、平成２年にオープンいたしました。６面ありますラバーコートのほとんどでその表層のサーフェスというラバーが剥がれまして、劣化が激しくて下地のアスファルトがむき出しになっているというような状況が長い間続いております。また、経年劣化によりまして凹凸が発生しているということは、我々押さえているところでございます。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　１番、山田です。続いて、それでは陸上競技場のサッカー場の芝の管理はどのようになっていますでしょうか。

**○議長（山本浩平君）**　武永生涯学習課長。

**○生涯学習課長（武永　真君）**　陸上競技場、こちらにつきましては平成６年に供用開始になった施設でございます。中央に広く大きな芝がございます。数年前まで、多分３年ぐらい前までは結構荒れてはいたのですけれども、最近は体育協会の芝の管理もしっかり行き届くようになりまして、また我々のほうでも予算をつけまして芝の管理というものも、業者に部分委託ですけれども、するということになりまして、一昔前に比べるとよくなっているというように我々のほうでは押さえております。また、サッカーをしていただく時期についても、芝の養生がある程度済んだ５月過ぎというのですか、６月ぐらいから使用していただけるようにお願いして、周りからも周知もうまくいって、そのように協力して使っていただいているようなところでございます。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　１番、山田です。私が教育委員だったころ、七、八年前だと思うので

すけれども、プールの前の池にガラスの破片がいたずらで入れられて、水を入れない水なし池になったという記憶があるのですけれども、現在はどのような状況になっていますでしょうか。

**○議長（山本浩平君）**　武永生涯学習課長。

**○生涯学習課長（武永　真君）**　議員さんおっしゃるとおり、10年ぐらい前にそういうような状態が長く続いておりました。その際には、砂利というか、そういうものが池の中に入っていたのですけれども、その後コンクリートで固めまして、何かあったらすぐに取り出せるようにしているのと、あと年中ということでなくて今のところは７月から８月までの暖かい時期にのみ、しっかりきれいにした段階で水を入れ、子供たちには楽しんでいただいているというところでございます。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　池が小さい子の水遊びの場所となっていくことがうれしいなと思いますけれども、私も知らなかったので、ぜひ宣伝していただきたいと思います。

体育協会の指定管理費内で、恐らく内だと思うのですけれども、ペンキを購入して自分たちで野球場のフェンスのような柵のようなところのペンキ塗り等をされているのは承知しておりますけれども、それ以外の大まかな修繕ですか、ラバーコートですとか、芝生の管理ですとか、そういったところをきちんと維持管理をして、まちづくり会社ができたらそういった公園施設プラススポーツ観光というのですか、アイヌ民族博物館を見学し、何らかの大会をやって、虎杖浜に宿泊していただいてとか、町内の飲食店を利用していただいてとかいう、そういう企画もできますから、そういったスポーツ観光的なツアーを企画するためにもきちんとした整備をして、まちづくり会社がもしできたとしても何を売りにしたらいいのかというのが、はっきり使えるような施設がたくさんないと事業計画も立てにくいのではないかと考えておりますので、テニスコートも６面あればフットサル大会もできますよね。そういったことで、公園整備というのは財政難においては優先順位の低い事業なのかもしれませんけれども、白老町に今あるものをどう強みにしていくか、知恵の絞りどきではないかなというふうに思います。

最後に、こういった公園整備全般についての議論をお聞きになってのまちの見解をお聞きして、私の一般質問を終わりたいと思います。

**○議長（山本浩平君）**　戸田町長。

**○町長（戸田安彦君）**　公園全般ということでありますが、まず最初の質問にあった子育て支援の話なのですけれども、３歳未満、３歳に限らずなのですけれども、外で遊ぶということは子供にとっても成長とか発達という意味では大変いいことだなと思いますので、この辺は教育委員会と相談しながら整備を進めていければいいなというふうに思っているのと、今議員からのお話にあったとおり、幼児のときの外遊びが非常に大事だということをまずは宣伝をして、公園があるから、ないからではなくて、親がそういう気持ちになるほうが大切だなというのは聞いて思ったので、そちらのほうも周知をしていければいいなというふうに思っております。また、桜ケ丘運動公園等々の大人というのですか、そういう競技場については確かにインフラ整備、環境が整っていれば大会誘致や合宿誘致はできると思いますので、この辺は箱物がなけ

れば、ホテル業界ともちゃんと連携をしながら宣伝もできると思いますし、大会誘致は、今のテニスの話ですとやっぱり黒くなるのです。僕も行ったのですけれども、それは行政の仕事だと思いますので、テニスコートも含めてきちんと整備をしていかないと逆に人が来てくれないというのは私も感じているところでありますので、財政の話に最後はなってしまうのですけれども、国や北海道、もしくはいろんな企業の補助メニュー等々に高額な補助があれば、それは知恵を出してきちんととりにいって、一般財源はできるだけ少ないような形で進められるようにアンテナを高くして進んでいきたいなというふうに思っております。

**○議長（山本浩平君）**　１番、山田和子議員。

〔１番　山田和子君登壇〕

**○１番（山田和子君）**　１番、山田です。アウトメディアの取り組みも随分、私が質問して以来本当に真摯に取り組んでいただきました。幼児の外遊びの環境づくりという点もしっかりと取り組んでいただきたいのと、あるものに磨きをかけていくための予算をしっかり確保していくということは大事だと思うので、お願いして終わります。

**○議長（山本浩平君）**　以上で１番、山田和子議員の一般質問を終了いたします。